第5回コンパクトなまちづくり専門小委員会　議事概要

日　　時	平成 28 年 6 月 29 日（水） 9 時 00 分～10 時 52 分		
場　　所	北九州市役所 5 階　プレゼンルーム		
出 席 者		氏　　名	役　職　名
	委　　員	白木　裕子	（一社）日本介護支援専門員協会　理事
	委　　員	寺町　賢一	九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授
	委　　員	中村　雄美子	NPO 法人北九州市子育ち・親育ちエンパワメントセンターBee 代表理事
	委　　員	◎柳井　雅人	北九州市立大学 経済学部 教授
	臨時委員	泉　　優佳理	元北九州ミズ 21 委員会（第 8 期）委員
	臨時委員	木内　望	国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部 都市計画研究室長
	臨時委員	志賀　勉	九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門計画環境系 准教授
	臨時委員	谷口　守	筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授
	事 務 局	建築都市局（都市計画課）	
議事内容	１　開　会 ２　議事 （１） 北九州市立地適正化計画（素案）に係る市民意見及び北九州市立地適正化計画（案）について （２） 北九州市地域公共交通網形成計画の策定状況について（報告） （３） 北九州市都市計画マスタープランの改定について ・まちづくりの背景と実績 ・まちづくりの課題と都市マス改定の方向性（案） （４）今後のスケジュールについて ３　閉会		

◎：委員長

第５回コンパクトなまちづくり専門小委員会の主な意見

１．市民意見並びに市の対応及び立地適正化計画（案）について

○居住誘導区域外において、これまでどおりの生活や地域活動が維持できるような取り組みを行うという対応は、立地適正化計画を作る理念から後退したような印象を受ける。

○冷静に将来を見通したとき、居住誘導区域外の展望をあまり甘く書くべきではないのではないか。

○居住誘導区域外においては、今までどおり全てが確保されるのではなく、問題を一緒に認識し、できることを一緒に考え、取り組んでいただきたいということが伝わるようにしたほうがよい。

○居住誘導区域外では最低限必要な生活基準を確保することを中心に施策を進めること、並びに、居住誘導区域内ではもう一歩上の水準を目指すこと、及び、これらについては時間をかけて進めていくということも示したほうがよい。

○計画の内容が、市民各自の生活からは少し遠くて想像しにくいと思うので、若い世代向けにも分かりやすい周知の方法・手段があるとよい。

○空き家・空き地の増加は、居住誘導区域外となっている場所でより進むことが考えられる。移行期間における、区域外でのこれらの課題に対し、どのように取り組むのか、検討が必要。

○斜面地などでは、同じ一つの自治会において、居住誘導区域内と区域外が存在する場合がある。そのようなところで、自治会運営やコミュニティ運営をどのように進めるのかということも、今後課題になると思われる。

○立地適正化計画を運用していく上で、各地域でどのような課題があるか把握するなどの取り組みができるとよい。

２．都市計画マスタープランの改定について

○市の障害者施策においては、障害者に配慮したいろいろな取り組みが行われているところである。現行都市計画マスタープランの目標の一つである「多くの人が住み、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち」に、障害者という言葉を入れ、引き続き

障害者にも配慮することを示して欲しい。

○災害時にどのように安全な行動を取るべきか、安心に住めるのはどこかが分かるようにすることもこれからの都市づくりで、大事になるのではないか。

○現行マスタープランにおける目標の達成度について、各種指標を用いて評価しているが、公共交通などの指標は、人口が減少している状況で横ばいならば、もっと良い評価をしてよいのではないか。また、目標値を設定する際には、無理に上向きの数値を設定する必要はない。